

目次

第1節 葉山町の景観特性と景観形成の方針	
葉山町の景観特性	・・・ 4
景観形成の方針	・・・ 5
第2節 エリアごとの景観特性と景観形成の方針	
葉山町の景観特性によるエリア区分	・・・ 8
丘陵住宅団地エリア	・・・ 9
葉桜住宅・イトーピア・東伏見台団地・つつじヶ丘団地・パーク・ド・四季・一色台など	
海浜交流エリア	・・・ 12
鏡摺～芝崎に至る海岸・海岸に隣接した地域	
旧保養地・住宅地エリア	・・・ 15
堀内地区の一部	
田園交流エリア	・・・ 18
木古庭・上山口・長柄地区の一部	
店舗・住宅エリア	・・・ 21
一色・長柄地区の一部	
旧別荘地住宅地エリア	・・・ 24
一色・下山口地区の一部 海岸に近い地域	
下山口溪谷エリア	・・・ 27
下山口地区の一部	
自然景観の保全	・・・ 30
各エリアの代表的色彩と推奨色	・・・ 31
景観まちづくり研究会のこれまでの活動	・・・ 33

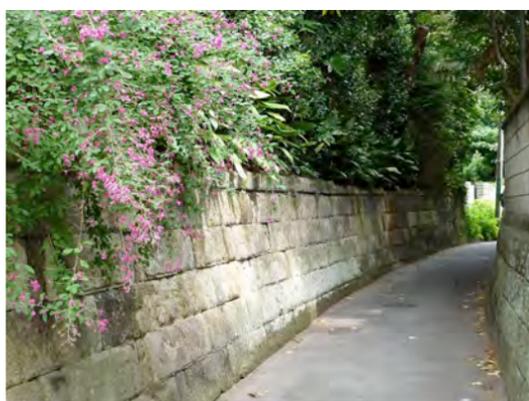
歴史的な資産をまちづくりに生かす（景観重要建造物の指定等）

葉山には、明治以来の別荘をはじめ、古墳や神社仏閣、庚申塔、地蔵尊、祠など多くの歴史的資産が残されています。しかし、別荘などの建造物の多くは私有財産であるため、世代交代等の理由で消滅の危機にさらされ、一部は既に消滅してしまいました。こうした歴史的資産をいかに保存し、いかに景観の質を高めていくか、行政が地域住民とともに知恵を出し合い、粘り強く行動していくことが望まれます。



人に優しい「葉山の小径」を残す

葉山の特色の一つは、人に優しい小径が網の目のように張り巡らされていることです。街の小径は生活の道であると同時に車に邪魔されることのない静かな散歩道です。海にまっすぐに向かう漁村集落の小径は、葉山の代表的な風景のひとつです。また、田園や山の小径は農作業のための道でもあり、散策者にとっては心安らぐ憩いの道でもあります。こうした「葉山の小径」は、葉山らしさを演出する大事な交流資源です。しかし消防や救急など解決しなければならない問題があります。今後、それぞれの地域住民と話し合い、可能な限り「葉山の小径」を残していくことが望まれます。



住宅地の緑を増やし育てる

山の緑はもちろん、住宅地にある生垣や敷地内の樹木の豊富さも葉山の魅力です。また、時を経た大木の多くは、そうした生活の場にあります。敷地内にある緑は私権にかかわるため、所有者の世代交代などによって失われていく恐れもあります。「生活の場にある緑」を守り増やしていくために、行政が地域住民や開発業者と十分に話し合い、緑を保全し育成していくことが必要でしょう。

